川上 高司 ブログ アーカイヴ

2018年

6月11日

歴史的会見の前夜

6 月 12 日は、世界中が注目している。米朝首脳会談が初めて開催されるからである。この会談で北朝鮮の非核化が決定されればまさにトランプ大統領は歴史にその名を刻むことになる。それは 3 年前、イランとアメリカが核合意をして世界から注目を浴び歴史的偉業と賞賛された JCOP の時と同じくらいのインパクトがある。どこまでもオバマ大統領の業績を否定し上を行こうとするトランプ大統領らしい。「自分はオバマよりも偉業をなした」とでも言いたいのであろう。

この歴史的会見を冷ややかに見ている国がある。その JCOP を潰されそうになったイランである。2001 年、ブッシュ大統領はイラン・イラク・北朝鮮を「悪の枢軸」と非難し体制転換を目指した。当時の政権はまずやりやすいイラクから手をつけフセインを葬った。そして今や北朝鮮を無力化すれば、悪の枢軸として残るのはイランだけである。イランは唯一の敵国と見なされる脅威をひしひしと感じているに違いない。なにしろ「悪の枢軸」として 3 カ国を敵視していたボルトンが大統領補佐官なのである。彼はイランの体制転換を諦めているわけではない。

だがブッシュ時代とはイランを取り巻く状況が大きく変化している。中国は「一帯一路」を掲げてユーラシアに乗り出している。イランは地政学上の要衝であり、中国はイランとの関係の深化に積極的である。経済制裁を欧米から受けているが、イランの石油の最大のバイヤーは中国であり、アメリカの経済制裁もどこ吹く風である。

そしてイランはしたたかにも中国とのバランスをとるべくインドとの関係の強化に乗り出した。インドは中国のユーラシア進出に懸念をもち、とりわけ宿敵パキスタンを支援する中国を快くは思っていない。インドにとってイランとの接近は中国への対抗上願ってもないことである。インドもイランからの石油の輸入は維持すると約束した。さらにペルシャ湾のガス田の開発でインドとイランは長年懸案事項を抱えていたが、イランが譲歩する形で決着がつきそうである。インドもしたたかである。

歴史的な米朝首脳会談の脇でひっそりと展開する外交に注目することもまた、国際政治の醍醐味である。

6月28日

女性と若者がキーワードの中間選挙

トランプ大統領にとって、国際政治よりも秋の中間選挙のほうが重要である。中間選挙で共和党が勝利を収めれば再選が現実味を帯びてくる。そのためには手段を選ばず、ひたすら支持率の向上を目指すことになる。外交政策も国際社会の変動や情勢よ

りも支持率アップのために展開されるのだろうが、国益無視の迷走となる可能性は高い。アメリカの外交がますます荒れると考えられ、世界にとっては迷惑な話である。

それは中間選挙の情勢で共和党が不利になればなるほど顕著になるだろう。今回の選挙の民主党の巻き返しは激しいものとなるに違いない。勝利のために民主党はいち早く戦略を変えてきた。「今年の選挙のテーマはジェンダー」と見極め、女性候補を多く擁立するつもりなのである。6 月のウォールストリートジャーナルの世論調査では女性のうち３７％が女性候補に投票したいと答えた。

これは#metoo 運動やトランプ大統領の女性蔑視の姿勢と深く関係がある。トンランプ大統領はいまや女性の敵なのである。 とりあえず民主党の女性候補に投票すればまし、という有権者の心理が働く可能性は高い。

アメリカ調査会社のピューリサ-チセンターの 6 月の世論調査によれば女性有権者のうち３２％が無党派層であるが、そのうちの５６％が民主党よりである。2016 年には５４％であったがトランプ大統領になり女性の民主党支持が微増している。逆に女性の共和党支持は微減した。この傾向は人種を越えている。白人の女性の民主党支持者は 2016 年から増加傾向にあり 48 ％となった。黒人女性では８７％、ヒスパニックでも６６％の女性が民主党を支持している。

世代間のギャップも深刻である。1980 年以降の生まれでは７０％の女性、４９％の男性が民主党を支持している。一方年齢層が上がるにつれて共和党の支持率があがり、ベビーブーマー世代では女性の５３％、男性４３％が民主党を支持しているが若年層に比べると支持率は下がっている。

つまり、民主党支持層は若い世代で女性が主流ということである。さらに非白人となればますます支持は高まる。この支持層はマイノリティー連合とも言えるが、まさに現職大統領の男性、高齢、白人へのアンチテーゼである。今年の中間選挙に注目したい